

横峰遺跡 3

— II - 1 次調査 —

大野城市文化財調査報告書 第175集



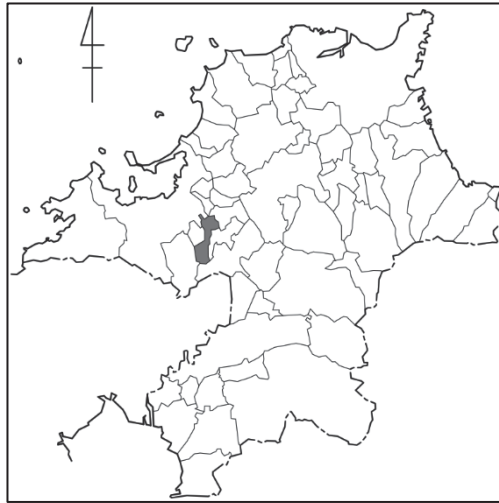
2019

大野城市教育委員会

横峰遺跡 3

— II - 1次調査 —

大野城市文化財調査報告書 第175集



2019

大野城市教育委員会

序

大野城市は、福岡平野の南部に位置し、西暦665年に築かれた日本最古の朝鮮式山城「大野城」にその名を由来する、古い歴史と豊かな自然に恵まれた緑の街です。市内には、大野城跡・水城跡・牛頸須恵器窯跡の国指定史跡をはじめとして、多くの文化財があります。

横峰遺跡は、市の南部、牛頸川東岸の丘陵上にあります。これまでに行われた発掘調査の結果、古代から中世にかけての集落の跡が見つかっています。今回報告する調査地は小規模なものです。その集落の一部と考えられる遺構が確認され、地域の歴史を理解する上で貴重な結果を得ることができました。

本書が今後、地域の歴史・文化財への理解を深める一助となるとともに、教育や学術分野で広く活用されることを心から願っています。

最後になりましたが、発掘調査に際してご理解ご協力をいただいた関係各位、また、現地において多くのご指導を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成31年 3月31日

大野城市教育委員会
教育長 吉富 修

例 言

1. 本書は、大野城市教育委員会が実施した横峰Ⅱ遺跡第1次発掘調査の報告書である。
2. 調査は徳本洋一が担当し、期間は平成21年9月10日から同年10月8日まで、面積は112㎡である。
3. 遺構の実測は徳本が行い、製図は吉田薫が行った。
4. 遺構の写真は徳本が撮影した。
5. 遺物の実測は吉田が行い、製図は吉田が行った。
6. 実測図中の方位は磁北を表し、座標は国土座標（第Ⅱ系）を使用している。
7. 本書掲載の遺物・実測図・写真は、大野城市教育委員会が保管・管理している。
8. 本書の執筆・編集は徳本が行った。

本文目次

I. はじめに	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査組織	1
II. 位置と環境	3
III. 調査の結果	
1. 調査の概要	5
2. 遺構と遺物	6
3. まとめ	6

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図 (S = 1/25,000)	2
第2図 横峰遺跡従前調査地図 (S = 1/2,500)	4
第3図 横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点遺構配置図 (S = 1/100)	5
第4図 横峰Ⅱ遺跡第1次調査出土遺物実測図 (S = 1/3)	6
第5図 横峰Ⅱ遺跡第2次調査地点遺構配置図 (S = 1/200)	6

図版目次

図版1	①横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点全景
	②横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点東端部
図版2	①横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点中央部
	②横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点西端部

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

横峰Ⅰ・Ⅱ遺跡は現在の太田城市横峰二丁目付近に所在し、1980年に福岡県教育委員会が刊行した『福岡県遺跡等分布地図（筑紫野市・春日市・太田城市・筑紫郡編）』には縄文～古墳時代の散布地として記載されている。今回の調査以前には発掘調査が行われたことはなく、付近での小学校建設の際に弥生時代の住居跡が検出されたと言われている。

今回の調査は、調査地の南側に隣接する都市計画道路の拡幅工事に伴うものである。事前に実施した試掘調査の結果、地表下約30cmで遺構が確認されていたが、工事による掘削が地表下60cmに及ぶことから、平成21年8月26日付で文化財保護法第94条に基づく通知を福岡県教育委員会に提出し、同年9月1日付で発掘調査の指示がなされた。その後施工者との協議を経て、同年9月10日から10月8日にかけて発掘調査を実施した。調査面積は112㎡である。なお、整理作業は平成30年度に実施した。

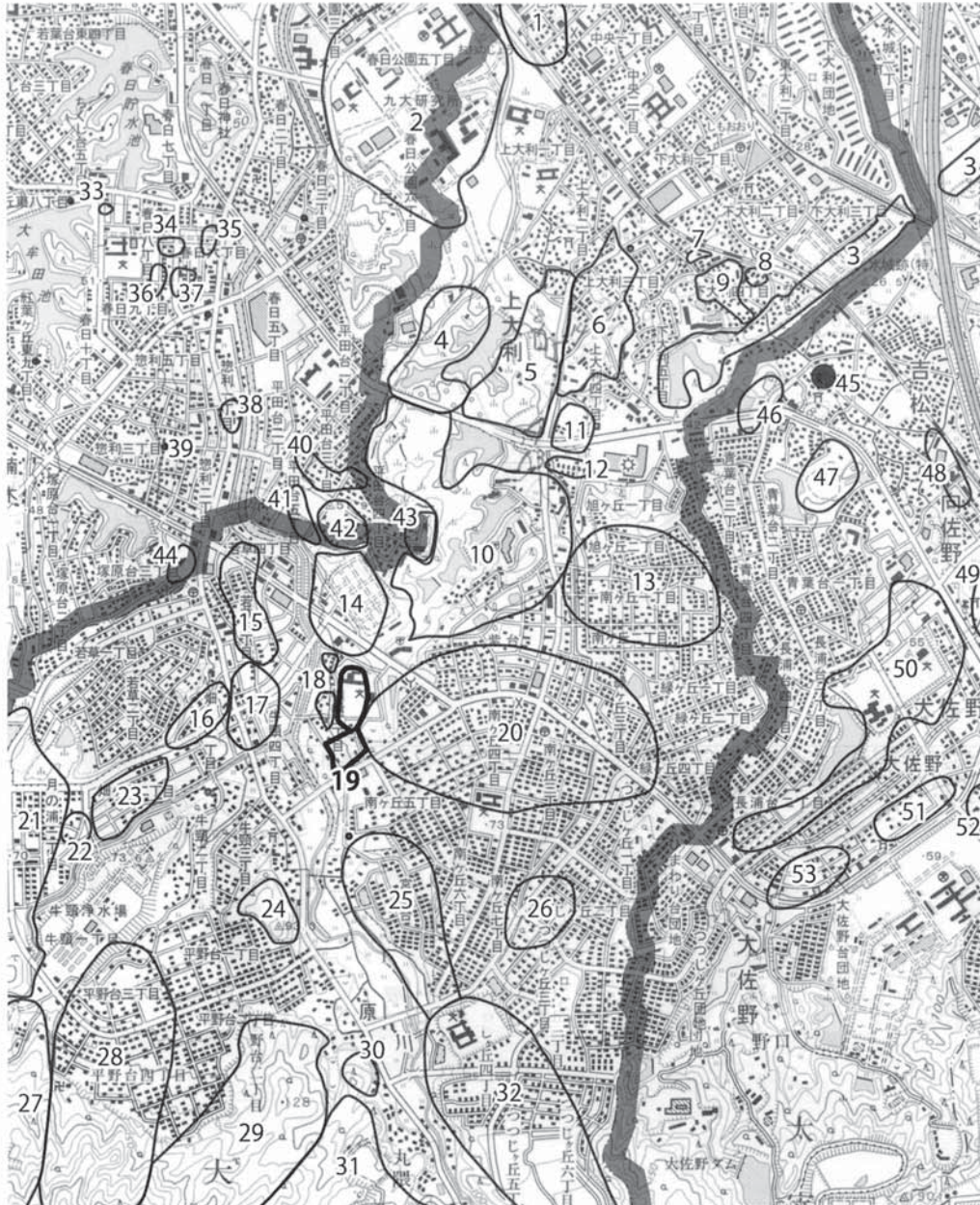
2. 調査組織

平成21・30年度における調査組織は以下の通りである。

[平成21年度]		[平成30年度]	
教育長	古賀宮太	教育長	吉富 修
教育部長	森岡 勉	教育部長	平田哲也
ふるさと文化財課長	舟山良一	ふるさと文化財課長	石木秀啓
係長	中山 功	発掘調査担当係長	徳本洋一
主査	徳本洋一	技師	山元瞭平
	石木秀啓	主事（任期付）	柴田 剛
	丸尾博恵	嘱託（調査）	澤田康夫
主任技師	林 潤也		三浦 萌（H30.4～9）
	早瀬 賢	啓発・整備担当係長	佐藤智郁
	上田龍児		林 潤也
嘱託	石川 健	主任技師	上田龍児
	吉田浩行	主事（任期付）	坂井貴志（H30.4～8）
	下高大輔		鮫島由佳
	中島 圭	嘱託（啓発）	山村智子
	大里弥生	嘱託（庶務）	浅井毬菜
			呉羽京子
			西村智美

整理作業員（平成30年度）

小嶋のり子 白井典子 津田りえ 仲村美幸 町井裕子 松岡信子 松本友里恵 村山律子 吉田薫



【大野城市】

- 1. 御供田遺跡
- 2. 九大筑紫キャンパス遺跡群
- 3. 水城跡
- 4. 梅頭遺跡群
- 5. 本堂遺跡群
- 6. 上園遺跡
- 7. 末次遺跡
- 8. 唐土遺跡
- 9. 谷川遺跡
- 10. 野添遺跡群
- 11. 小水城周辺遺跡
- 12. 上大利小水城跡
- 13. 大浦窯跡群

14. 華無尾遺跡群

- 15. 日ノ浦遺跡群
- 16. 畑ヶ坂遺跡群
- 17. 塚原遺跡群
- 18. 屏風田遺跡
- 19. **横峰遺跡**
- 20. 平田窯跡群
- 21. 小田浦遺跡群
- 22. 月ノ浦1号窯跡
- 23. 月ノ浦遺跡群
- 24. 城ノ山窯跡群
- 25. 中通遺跡群
- 26. 上平田窯跡群
- 27. 石坂窯跡群

28. 大谷窯跡群

- 29. 原浦窯跡群
- 30. 原窯跡
- 31. 井手窯跡群
- 32. ハセムシ窯跡群
- 【春日市】
- 33. 惣利窯跡群
- 34. 惣利遺跡
- 35. 惣利北遺跡
- 36. 惣利西遺跡
- 37. 惣利東遺跡
- 38. 円入遺跡
- 39. 惣利古墳
- 40. 春日平田遺跡群

41. 春日平田西遺跡

- 42. 浦ノ田遺跡
- 43. 春日平田東遺跡
- 44. 塚原古墳群
- 【太宰府市】
- 45. 島本遺跡
- 46. 神ノ前窯跡
- 47. 篠振遺跡・窯跡
- 48. 原口遺跡
- 49. 前田遺跡
- 50. 宮ノ本遺跡群・窯跡群
- 51. 京ノ尾遺跡
- 52. 殿城戸遺跡
- 53. カヤノ遺跡

第1図 周辺遺跡分布図 (S = 1/25,000)

Ⅱ. 位置と環境

地理的環境 横峰遺跡が所在する本市南地区周辺は、牛頸山から派生する丘陵部にあたる。牛頸山は、脊振山系から北にのびる丘陵の一部にあたり、大野城市上大利や太宰府市向佐野周辺までおよぶ丘陵地となっている。この周辺は、地質的には中生代白亜紀末の早良型花崗岩からなり、表層は風化が激しく、マサ土となっている。さらにこの丘陵を牛頸川・平野川・足洗川などの河川が開析し、山麓部から平地丘陵部にかけては段丘がよく発達している。

歴史的環境 こうした本市南部の丘陵上には、旧石器時代から連綿と遺跡の展開が認められる。ただし、旧石器・縄文時代の遺跡は少なく、横峰・本堂遺跡でナイフ型石器が出土、九州大学筑紫キャンパス遺跡群・塚原遺跡群・日ノ浦遺跡群・本堂遺跡群などで縄文時代草創期から晩期にかけての遺構、遺物が確認されている程度で、いずれも小規模なものである。

弥生時代になってもこうした状況は変わらず、日ノ浦遺跡群で前期の甕棺墓・土壙墓が確認されているほか、惣利東遺跡・九州大学筑紫地区遺跡・本堂遺跡群で中期以降の集落遺跡が確認されるなど、集落の形成が認められるようになる。

この地域で遺跡の数が増えるのは古墳時代後期以降のことであり、特筆すべきは牛頸窯跡群の存在である。牛頸窯跡群は、6世紀中頃から9世紀中頃まで須恵器を焼成した九州最大の須恵器窯跡群であり、その総数は600基にせまると考えられている。

牛頸窯跡群で最も古い窯跡・集落は、群の北部上大利地区に所在する本堂・野添窯跡群である。本堂遺跡群14次調査1号窯跡や野添6号窯跡は6世紀中頃にあたり、付近に広がる上園遺跡では集落遺構が確認されている。この時期の代表的な窯跡群としては、梅頭窯跡群・小田浦窯跡群などが挙げられる。また、月ノ浦1号窯跡・小田浦79地点2号窯跡・野添13号窯跡など、須恵器と瓦を同時に焼成したいわゆる瓦陶兼業窯の存在も注目される。

古墳も数多く築造されており、小田浦古墳群、後田古墳群、中通古墳群などが挙げられる。また、特殊な墳墓として、操業終了後の窯跡を墳墓に転用した梅頭遺跡1次調査1号窯が挙げられる。この時代の集落遺跡としては、上園遺跡・日ノ浦遺跡群・春日平田遺跡・惣利西遺跡などが挙げられる。丘陵上に位置する横峰遺跡も、こうした集落遺跡にあたる。これらの多くは、須恵器工房を含む須恵器工人の集落跡と考えられている。

8世紀になると、牛頸周辺では引き続き盛んに須恵器窯の操業が行われている。代表的なものとしては、井手窯跡群や石坂窯跡群・小田浦窯跡群・ハセムシ窯跡群などが挙げられる。9世紀代になると窯の数が急激に減少し、現時点では9世紀中頃にあたる石坂窯跡群E地点3号窯跡が最後の牛頸窯跡群の窯跡と考えられている。

牛頸窯跡群操業終了後、遺跡数は減少し、11世紀から12世紀にかけての集落・寺院は上大利地区の上園遺跡などで確認される。ところで、横峰遺跡の西側約200mの所に位置する平野神社は正暦年間（990～995年）に京都平野神社から勧請されたと伝承されている。この時期の遺跡は周辺では極めて少ないが、平野神社の祭神が今木神・久度神・古開神・比咩神と渡来系であることから牛頸窯跡群との関わりが考えられ、周辺で新たに古代末から中世にかけての遺跡の発見が期待される。



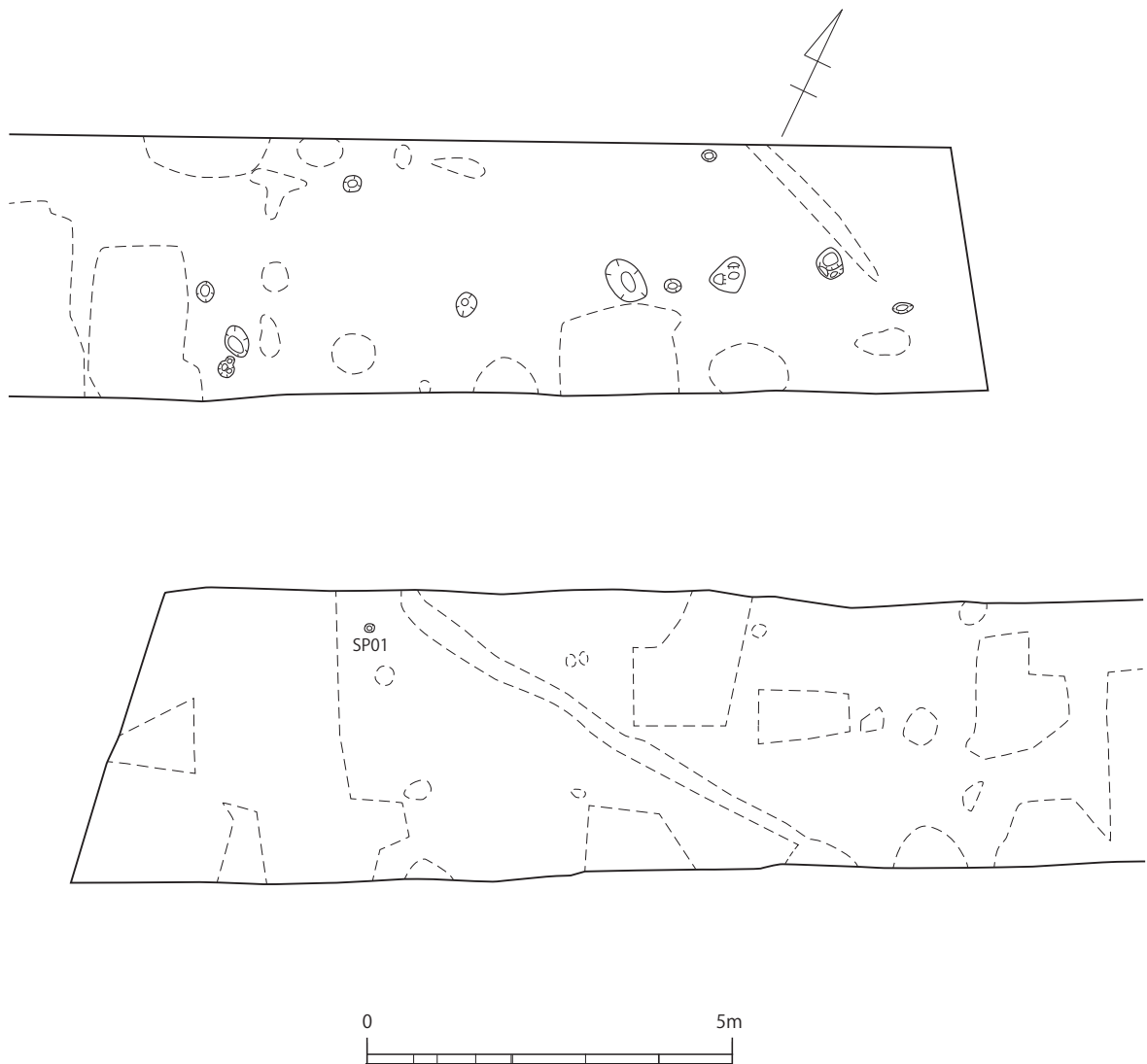
第2図 横峰遺跡従前調査地図 (S = 1/2,500)

Ⅲ. 調査の結果

1. 調査の概要

横峰遺跡は横峰2丁目に広がり、包蔵地としては平野小学校を中心とする場所を横峰Ⅰ遺跡、南コミュニティセンター北側にあたる場所を横峰Ⅱ遺跡としている。団地造成等による宅地化が進んでいるため旧地形は分かりにくいですが、遺跡は牛頸川東岸の丘陵部分に位置している。これまで、横峰Ⅰ遺跡で1ヵ所（Ⅰ-1次調査：大野城市報105集）、横峰Ⅱ遺跡で2ヵ所（Ⅱ-1次調査、Ⅱ-2次調査：大野城市報138集）の報告が行われており、本報告はⅡ-1次調査の結果である。

横峰Ⅱ遺跡1次調査地は、大野城市横峰二丁目1274-2他に所在する。牛頸川東岸に面した丘陵部にあたり、標高48m前後を測る。調査前は宅地として利用されており、ほぼ平坦に造成されていた。調査は、平成21年9月10日から10月8日にかけて実施し、調査面積は112㎡である。調査では、地表下30cmで明橙色土（Aso-4火砕流堆積層）が確認され、この面で遺構が確認された。しかし、耕作や宅地化にともなう造成を受けており、遺構の残存状況は悪かった。調査の結果、ピットが検出され、SP01から須恵器小片が出土した。



第3図 横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点遺構配置図（S = 1/100）

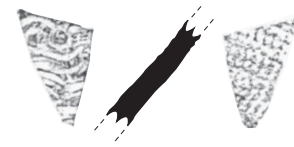
2. 遺構と遺物

SP01 (第3図)

調査区の西側で検出され、径13cm × 10cm、深さ5cmを測る。

出土遺物 (第4図)

須恵器甕の一部。外面には擬格子タタキ、内面には同心円文当て具痕が見られる。



第4図 横峰II遺跡第1次調査出土遺物実測図 (S = 1/3)

3. まとめ

先述したように、横峰I・II遺跡では合計3次の発掘調査が行われている。今回調査地の北東側150mにあるI-1次調査地では、住居跡や土坑・ピットが確認されている。また、本調査地に隣接するII-2次調査地では、焼土坑・ピットが確認されている。いずれの調査区も削平が著しく、遺構の残存状況は良好ではなかったが、7世紀後半から8世紀にかけての遺物と10~11世紀にかけての遺物が小片ながら確認されている。

これまでの牛頸窯跡群周辺の調査では、窯跡の近くの丘陵斜面に集落・工房を構えた事例が確認されている。これに対し、横峰遺跡は丘陵頂部に立地しており、丘陵のやや広い場所に集落を営んだ可能性がある。また、調査地の西側200mにある平野神社周辺は正暦年中の創建とされており、同時期の集落が周辺の丘陵上に広がる可能性があることが指摘できる。

丘陵地を造成して宅地が進行した現状では、古代・中世の姿にどこまでせまれるか課題であるが、今後とも周辺の調査を進めることで、新たな歴史像を構築できるであろう。



第5図 横峰II遺跡第2次調査地点遺構配置図 (S = 1/200)

圖 版



①横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点全景



②横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点東端部



①横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点中央部



②横峰Ⅱ遺跡第1次調査地点西端部

報告書抄録

ふりがな	よこみねいせき さん							
書名	横峰遺跡3							
副書名	Ⅱ-1次調査							
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第175集							
編著者名	徳本洋一							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092 (501) 2211							
発行年月日	2019年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
よこみねいせき 横峰Ⅱ遺跡 第1次調査	福岡県大野城市横峰 二丁目1274-2他			33° 30′ 8″	130° 28′ 24″	2009.9.10 ~10.8	112㎡	道路拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
横峰Ⅱ遺跡 第1次調査	集落	古墳~ 奈良	ピット	須恵器				
要 約	調査では、ピット（SP）が確認され、須恵器が出土した。遺構の残存状況が悪く、本来の遺跡の在り方を明らかにすることはできないが、これまでの牛頸窯跡群周辺の調査では、窯跡の近くの丘陵斜面に集落・工房を構えた事例が確認されている。これに対し、横峰遺跡は丘陵頂部に立地しており、丘陵のやや広い場所に集落を営んだ可能性がある。また、調査地の西側200mにある平野神社周辺は正暦年中の創建とされており、同時期の集落が周辺の丘陵上に広がる可能性があることが指摘できる。							

大野城市文化財調査報告書 第175集

横峰遺跡 3

平成31年 3月31日

発行 大野城市教育委員会
〒816-8510
福岡県大野城市曙町 2丁目 2-1

出版 九州コンピュータ印刷
〒815-0035
福岡市南区向野 1丁目19番 1号